

一言メモ

(ウイキペディア、古河市観光案内のHPより)

旧谷中村：谷中村は現在の渡良瀬遊水池の南側に合った村で、室町時代から人々が住み始めました。3年に一度は洪水に見舞われるという洪水常襲地帯でしたが、土壌が肥沃で自然が豊かな村で村民は農業の他漁業や養蚕、スゲ笠作りなどを行って生活していました。明治20年代、足尾銅山からの鉱毒による被害が、渡良瀬川沿岸地域に拡大していきます。被害を受けた村民達は、栃木県選出の衆議院議員田中正造とともに、足尾鉱山の操業を停止と被害民救済を訴え続けました。明治36年、政府は洪水と鉱毒被害の対策として谷中村の堤内地を遊水池とすることを決定します。明治38年から栃木県、国による堤内地の買収を行い、350戸ほどの村民は移転して行きました。明治39年、谷中村は藤岡町へ合併され廃村となる。明治40年、堤内地に残り移転に反対した村民に対し家屋の強制撤去が行われましたが、家屋を失った16戸の村民は仮小屋を建て、大正6年まで住み続けました。昭和47年、谷中村の中心部にあった役場などを残すことで貯水池建設工事が始まり、平成2年現在のハート型の谷中湖が完成しました。(現地案内版、一部削除)



旧谷中村史跡保存ゾーン入り口



旧谷中村役場跡



旧谷中村跡

古河城出城跡周辺

江戸時代この道は、将軍が日光社参の際に、古河城に宿泊するためここから入城しました。古河城出城跡で土塁、お堀など当時がしのばれ、古河城跡が痕跡をとどめない今、貴重なエリアです。歴史博物館、鷹見泉石記念館、文学館と至近距離にあります



古河歴史博物館



鷹見泉石記念館



古河文学館



肴町、古河藩使者取扱所(御馳走番所)

肴町、米銀のところに大名の使者を応接する役所がありました。役人は客を迎えるために馳り廻るので、ここの御馳走役人、役所を御馳走番所ともいいました。肴町というのは職業名の町名で、川魚を扱う御用商人がいたことによります。肴町通りは、古河城への食糧調達の道でもありました。